

令和2年4月7日(火)

暖かな日の光を浴びた、緑まぶしい春爛漫の本日、保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに千葉県立白井高等学校第三十八回入学式を挙げていただきますことを、深く感謝申し上げます。

ただ今、入学を許可しました240名の新入生の皆さんに、心からお祝いを申し上げます。ウィルス感染症の影響で、世の中がこのような状況であるからこそ、新入学という慶事は多くの人々に光を与えるものであると思います。やむを得ず式典は縮小せざるを得ませんでした。保護者の方々も、こうしてお集まりくださり、本校職員とともに喜びをこの場で一つにできたことは、校長としてこの上ない幸せです。

今年は冬の終わりから暖かな日が続く、桜の開花も例年になく早かったと承知していますが、その花を愛でる宴に集うことは許されず、咲き誇る桜を称える声は密やかにしか聞こえてきませんでした。しかし、見上げる人間は少なくとも、誰が褒めずとも、桜は自らの務めを怠ることなく、変わらぬ美しい花を、淡々とそして堂々と咲かせていました。人間の評価など感じ取るはずもない、そんな桜の木であることはもちろんですが、私はかくありたいと思いました。そして、新入生の皆さんにも、そうあってほしいと望んでいます。

誰が見ていなくとも、成すべきことを成す尊さ、認めてもらうことを目的とはしない潔さ、誠実さを大事にしてほしいと思うのです。今日、皆さんの高校生活はスタートしましたが、世情を反映して、すぐには安定した学校生活を送れないかもしれません。しかし、成すべきことはただ一つ、自分自身を鍛え、高めることを日々思い、そのために全力を尽くすことです。誰が見ていなくとも、誰に褒められずとも、言葉や数字に現れなくとも、その務めを果たしなさい。そして忘れないでください。あなたの咲かせた花を称える盛んな宴が開かれることはなくとも、誰もがひっそりと満開の花を見上げ、その見事さに心打たれています。そして、我が白井高等学校の教職員は、そんな皆さんを全力で支援することをお約束します。

保護者の皆様、お子様の御入学、誠にありがとうございます。御多用のところ、御列席いただき、ありがとうございました。本日から、大切なお子様をお預かりすることとなりました。もとより全力を尽くす覚悟ではありますが、学校だけでは背負いきれない、複雑な教育課題が増えていることも事実です。学校と家庭、そして地域の教育力が補完し合い、お子様の成長を促していく白井高校でありたいと、私は切に願っております。なにとぞ、御理解、御協力、そして御支援いただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、情勢を鑑みてお招きを控えさせていただきましたが、平素から本校の教育活動を支えてくださる関係者の皆様に、衷心より感謝申し上げます。新入生の前途洋々たる高校生活を確信し、実り多いものとなることを深く祈念して、式辞といたします。

令和2年4月7日

千葉県立白井高等学校長

野澤 則之